

令和5年度 事業報告書
上鳥羽南部いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社丸起】

目次

1. 管理運営の状況.....	1
1 施設運營業務.....	1
(1) 職員体制.....	1
(2) 貸館等.....	1
(3) 情報発信等.....	2
(4) 管理運営.....	3
(5) その他.....	3
2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業.....	4
1. 市民活動支援・活性化事業.....	4
1. 上鳥羽六斎念仏 発表会 (9/24)	4
2. 上鳥羽六斎念仏 勉強会 (10/14, 11/17)	7
3. 歌声サロン (第 1, 3 金曜日)	10
4. 健康体操 (第 1, 4 木曜日)	12
5. 健康実践交流 1 (11/4)	14
6. 卓球交流会 1, 2 (9/2, 3/9)	16
7. 世代を超えた音楽交流会 (6/3)	18
8. 音楽交流会 2 (1/20)	21
9. いきセン利用者交流会 (12/9)	23
2. サロン運営・活用事業.....	25
1. 脳トレーニング.....	25
2. サタデーカラオケサロン&日曜カラオケ.....	27
3. マージャン交流.....	29
4. ふれあい絵てがみ.....	31
5. 抹茶交流.....	33
7. 造形教室.....	35
8. フラワー教室.....	37
9. ふれあい書道.....	39
3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算.....	41
4. 施設の利用者満足度の把握.....	41
5. 指定管理者による管理運營業務の自己評価.....	44
6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項.....	45

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 3 名、非常勤 2 名）

【人材育成の取組】

5 年度にはセンター長が体調不良で入院となったために、11 月にセンター長が交代した。新センター長は情報分野に優れ、センター事業の多様な情報発信を広げている。情報発信の強化は、当センターの課題の一つであった。また、3 年目を迎える常勤の女性スタッフの堅実な勤務態度は評価される。さらに、6 月から 40 代男性を常勤スタッフとして採用し、センター長を補佐する等、センター長を中心としたいきセンの連携体制が整いつつある。

人材育成の視点も含め、月 1 回のセンター会議（センター職員と指定管理者との話し合い）を開催し、スタッフ同士の力量アップに努めている。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
63	69	57	64	68	54	57	58	48	52	63	73

(年間) 726 件 (前年度比 ○113%) (令和 4 年度 642 件、令和 3 年度 552 件)

イ 利用状況

○年間での利用状況について

利用時間、件数において第一会議室は全体の 80%、第二、第三会議室の利用はそれぞれ約 10%であった。

第一会議室は、全体として午前午後の卓球の団体利用が 80%を占めている。卓球では、平日と土曜日はシルバー世代が、日曜日はファミリー世代が利用している。夜間の利用は増減はなく、音楽練習やダンス、会合での利用が主である。

第二会議室、第三会議室は、コロナで控えられていた楽器・音楽練習での利用が増えてきている。

事業者利用は、マイナンバーカードの出張申請所、上鳥羽六斎念仏のテレビ中継の場所としての利用があった。

○課題や改善が見られた部分

- ・利用されるのは第一会議室に偏っており、第二、第三会議室の利用が少ない。
- ・平日の午前、午後や土曜日に比べ、夜間や日曜日の利用が少ない。件数は少ないが夜間や日曜日の新規利用者にヒアリングすると、ネットで検索していきセンのことを知ったとのこと。情報発信の成果があったと思われる。

ウ 利用促進に向けた取組

○センターで取り組まれたこと

HP などへの情報発信もあるが、実際に利用されている利用者が過ごしやすい環境づくりに力を入れている。来館時や退館時の声かけやちょっとした相談事への対応などで、職員に親しみやすさをいただけてもらえるようにした。

利用者向けではあるが、会議室の空き状況が手軽にわかるように、1 ヶ月間の予約状況の一覧を作成掲示した。

参加者を募集しているサークルや事業が多くあるが、いつ実施されているのかがわかり易いものがなかったため、1 ヶ月間ごとのカレンダーを作成し配布した（今までなかったこともあり、わかりやすいと好評をいただいている）。

エ その他

○サロンについて

令和元年度～5年度の利用状況

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
件数	119	19	47	219	330
人数	1117	161	247	994	1739

令和4年度に比べて、件数、人数ともに増加した。

増加した理由としては、4年度に引き続いてサロン運営・活用事業を9事業実施しており、昨年は年度の途中からスタートした事業が4月から実施することができたこと、年度の途中で実施回数を増やした事業があること、サークル活動として陶芸教室をスタートしたことが挙げられる。

事業以外での利用は6件（会合や一人カラオケで使用）。利用を増やすためにサロンの利用状況一覧を作成して配布しており、利用促進を図りたい。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

○SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について

センターのホームページには、実施事業の実施風景の写真などを一覧表示で掲載し、一覧でわかるようにした。

Facebookには年間267件投稿した。事業の実施予告や実施風景を写真や動画で投稿し、どのような人が参加し、どのようなことをしているのかをわかるようにして親しみを感じるようにし、初めていきセンを利用しに来る方が来館しやすくなるような紙面を心掛けた。

ジモティには、昨年から継続してセンターの情報を掲載した。いくつかの新規利用者は、京都市内で卓球ができるところをWebで検索して見つけたと聞いており、利用促進に役立っていると考えている。

事業のチラシを地域回覧板で回覧した。また、実施日が近くになってしまったものについては、各いきセンへチラシを直接配達するなどした。

○センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組
センターに持ち込まれたチラシは、了解を得て Facebook へ投稿した。また、上鳥羽地域の
ことであれば実際に赴いて取材し、写真や動画をアップした（上鳥羽六斎念仏や、地域の
寺院のイベントなど）。

イ 取組の効果

○アの取組により効果が見られた事例

団体の立ち上げや、事業の実施などにつながることはなかった。

(4) 管理運営

○防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業
務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について

- ・センター本館1，2階の窓ガラスを中心とした清掃業務、第一会議室の床のワックスが
け、建築設備と消防設備の定期点検、センターの南側と西側の植樹の剪定等を実施。

(5) その他

○「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」
で実施したもの

- ・「施設運営の質を高めるための取組」として、月1回センター職員と指定管理者による会
議（センター会議）を実施している。定期開催することで課題を共有することができ、管
理運営で行った点検や保守などを計画的に行った。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

1. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組① 発表会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年9月24日（土）13時～15時15分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 24名
- 4 協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中
- 5 予算： 48,000円 / 決算： 48,000円

1 事業内容

第1部 「獅子と土蜘蛛考」の講話（講師：山中崇裕氏）

第2部 蜘蛛の巣の制作過程の紹介

上鳥羽六斎ジュニアによる「四つ太鼓」「獅子と土蜘蛛」の実演
蜘蛛の巣の実技体験

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・参加者同士の交流や関わりが希薄。

2 準備段階での工夫

- ・上鳥羽六斎念仏講中の方と内容について打ち合わせを行うにあたり、後継者の発掘が話題となった。演目で必要となる小道具の「蜘蛛の巣」の作成には手間がかかるものだが、現在2名の高齢者が作成しており、後継者が必要であると考えておられていた。そこから事業内容を検討していった。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・六斎念仏の担い手の育成と地域の人材の発掘を目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○(1)の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・講話の内容は、参加者にとって初めて聞く内容であった。また、上鳥羽六斎念仏ジュニア（上鳥羽六斎念仏の子ども教室）の子ども達にとっても初めてで、六斎念仏についての理解が深まった。
- ・アンケート結果からも六斎念仏に興味を抱いた方が現れた。後継者発掘のきっかけとなったと考える。

- ・講中からは上鳥羽六斎ジュニアへの加入者が増えているとの声が聞こえており、講中の課題である地域から六斎念仏の担い手を発掘することの一助になったと思われる。

○アンケート結果などから

- ・上鳥羽六斎ジュニアとして出演していた小中学生も、「蜘蛛の巣」を作成しているところを見ることがなかったようで、自分たちが演じていることについての理解を深めることができた。

4 今後の抱負

- ・講座だけにならないようワークショップ形式を取り入れたが、準備不足な点があった（蜘蛛の巣の体験させる機会が初めてであったので、扱い方や投げ方の説明がうまくできず、上手く投げられない人が多く見られた）。また、講話についての質疑応答の時間を作ることができなかつたり、演奏が始まる直前に楽器の忘れ物があったことに気づき終了時刻が遅くなってしまったりと、不備な点が見られ、改善したいと考える。
- ・上鳥羽六斎念仏を地域をあげて伝承、保存、支援していくために、方法について講中とも話し合い、他の団体と連携できることがあるかも検討していきたい。

事業風景の写真



【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組③ 勉強会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第1回 令和5年10月14日（土）13時30分～15時15分
第2回 令和5年11月17日（土）13時30分～15時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 本館2階旧図書室
- 3 参加人数： 第1回：28名 第2回：14名
- 4 協力団体等：京の風流踊振興会
- 5 予算： 96,000円 / 決算： 91,000円

1 事業内容

ユネスコの無形文化遺産に登録された京都の風流踊の普及啓発のため、「京の風流踊振興会」と連携し、勉強会を2回実施した。

- ・第1回「京都の六斎念仏 ー風流と個性の楽しみ方ー」（小林孝夫氏 京都の祭り・民俗文化研究家）
京都市内の六斎念仏の個性や違いを映像を交えて紹介し、「獅子と土蜘蛛」の曲の違いを考察。
- ・第2回「六斎念仏における祇園囃子の受容と変化」（吹田哲二郎氏 千本六斎会会長）
祇園祭と六斎念仏の祇園囃子を比較し、「六斎念仏らしさ」を考察。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。

2 準備段階での工夫

- ・講師や勉強会の内容については事前にいきセンと振興会とで相談し、プレゼンや資料の内容については上鳥羽橋上鉦講中にも協力を仰ぎ校正作業を行っていただいた。
- ・勉強会の告知について、チラシやSNSへの宣伝は振興会といきセンでそれぞれ行うことにした。
- ・事業の様子を Facebook でライブ配信を行うことにした。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域住民に六斎念仏を知っていただくこと。振興会と連携し、地域以外にも広く普及活動を行うこと。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・参加者は京都市内から広く来られていたように見受けられた。普及活動の一助となったと言える。

- ・ 2回目の勉強会は時間が足りずに紹介できなかった内容があった。終了後、講師と一部の参加者がいきセンに残り、その内容について交流を図られた。参加者同士の交流という点では足りないので、交流をはかる仕組みが必要である。
- ・ アンケートからは、「貴重なお話でした。とてもおもしろかったです。」「実際の各地域の風流踊をみて、楽しんでいます。来年はもう少し深く見られたら良いと思います。」「9月に六斎念仏の実演を拝見したので興味を持ちました。これからは現地で見学したいと思います。」と、興味を抱かれた人が多くあった。普及活動の一助となったと言える。

4 今後の抱負

- ・ 事業の目標が普及啓発にあり、まだ広く知られていない六斎念仏についての情報を発信していく活動であったため講座型となった。質疑応答や勉強会後に交流があったりしたが、参加者との交流を深めるための手立てを検討したい。
- ・ 参加者の中に、バス停が見つからないのでタクシーで来たという方があった。いきセンの最寄りの停車場行きのバスは1時間に1本なので、そのバスを逃してしまうと事業の開始時間に間に合わなくなる。京都市内から広く参加者を集める場合には、交通機関の案内方法に工夫が必要である。

事業風景の写真



【事業名】健康長寿チャレンジ事業 取組① 歌声サロン（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 金曜日 14 時 30 分～16 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：210 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 288,000 円 / 決算： 288,000 円

1 事業内容

高齢者の認知症予防と住民の健康づくりを目指す。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②講師は坂下正幸氏（音楽療法士）。認知症予防の講話と音楽、ボイストレーニング体操等の実技トレーニングに取り組む。楽器等は講師が用意する。
- ③いきセンは連絡調整や会場設営などを行う。

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・指導者が固定されている。

2 準備段階での工夫

- ・自治連合会の老人会の方が参加されており、参加者募集の呼びかけをしていただいた。
- ・歌声サロンで使用する楽器の準備、片づけは参加者がこなすよう協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・高齢者の認知症予防と住民の健康づくり、また参加者が継続して参加することも重点とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・各回の参加人数は平均 8.7 人で、継続して参加される方が多い。
- ・アンケートはしていないが、毎回和やかな雰囲気で行われていた。「いつも楽しく歌っています」との声があり、皆参加する事に意欲的になっておられた。

4 今後の抱負

- ・新規参加者の定着が課題である。講師の活動は京都市内に拡大していると聞くので、参加者を増やす方法を検討したい。
- ・歌声サロンの実技体験、参加者の意欲的な参加意識、講師と参加者との良好な人間関係など、好ましいつながりが形成されてきた。講師が固定化されていることについては指導者・参加者とも相談していく。

事業風景の写真



【事業名】健康長寿チャレンジ事業 取組② 健康体操（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 14 時～15 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：176 人/年
- 4 協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター
- 5 予算： 293,000 円 / 決算： 52,000 円

1 事業内容

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②京都市南区地域介護予防推進センター（推進センター）と連携し、講師は健康運動指導士。講師は実施日によって異なる。
- ③健康体操は、座位でタオルを使用し、筋力トレーニングと整理体操を行う。
- ④活動場所は本館 2 階旧図書室で、空調がないため夏季はサロンを利用する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・実施日について、参加者の希望をヒアリングし推進センターと調整した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・月 2 回の体操を続けていくことで、生活リズムの改善や体調不良の改善、よりよい健康生活を獲得すること。
- ・健康体操の成果を地域に広げ、住民の健康志向を高めること。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・前年度(134 人)と比べ参加人数が増えており、新規参加者もあった。健康体操を地域に広げることには効果があったと思われる。
- ・健康運動指導士の指導がわかりやすく、熱心に参加される方が多い。
- ・新規参加者の中には爽やか体操（サロン運営・活用事業取組①）にも参加されるなど、体操の広がりが感じられる。

4 今後の抱負

- ・年度の途中で推進センターの方針が変更になり、講師を要しないサークル活動への転換が求められるようになった。参加者のより自主的な活動が必要となり、いきセンはそれをサポートしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】健康長寿チャレンジ事業 取組③ 健康実践交流1～子どもの健康保障と課題（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年11月4日（土）13時30分～15時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 8名
- 4 協力団体等：山ノ本児童館
- 5 予算： 16,000円 / 決算： 13,000円

1 事業内容

小学校の学校教育では、タブレットによる自主的な学習が取り組まれている。一方で、スマホやゲーム機の使用により、基本的な生活習慣の乱れや心身に不調をきたす子どもも見られる。このような状況で保護者や地域住民が子どもの健康な生活のために「大人として何ができるのか？」を参加者同士で話し合うワークショップを行う。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②児童館厚生員より「子どもとSNSの世界」と題して話題提供をする。
- ③2グループに分かれて、話し合う。
- ④各グループの話し合いの報告と提案を行う。
- ⑤まとめ

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。

2 準備段階での工夫

- ・現在の子どもの様子や問題について参加者が知り、議論ができるように、子ども達と接している児童館に協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・現在の子供達の現状を知り、参加者が子どもの健康な生活のために「大人として何ができるのか？」について考え、それぞれの意見を持つこと。
- ・講座型ではなく、話し合いによるワークショップの手法を取り入れること。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・子供達の現状の様子や問題について、児童館厚生員の講話によりよく知ることができた。
- ・子供の事例を出し合い、健全な成長についての議論を深めることができた。
- ・スマホやゲーム機をいかに効果的に使いこなすかについて、多様な意見が出された。また、大人の課題でもあるとの認識を共有でき、具体的な行動まで落とし込める方もあった。

4 今後の抱負

- ・アンケートからも、参加人数が少ないとの指摘があった。ワークショップによる話し合いの形式がいきセンとして初の試みであったためか、地域からの参加者が少なかった。今回参加された方からは「もっと大々的にやれば良いと思う。」のような、ワークショップについては好意的な意見をいただいた。参加者募集の広報に工夫が必要である。

事業風景の写真



【事業名】健康長寿チャレンジ事業 取組④ 卓球交流会 1、2（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年9月2日（土）13時～16時、令和6年3月9日（土）13時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数：卓球交流会1：23名、卓球交流会2：22名
- 4 協力団体等：なし
- 5 卓球交流会1（予算：3,000円／決算：3,000円）
卓球交流会2（予算：4,000円／決算：4,000円）

1 事業内容

- ①地域から参加者を募集する。2ではより広範囲から参加者を募集し、各いきセンなどにチラシを配布する。
- ②いきセンを利用している卓球サークルに協力を呼びかけ実行委員会を作る。
- ③実施内容やルールは実行委員会で相談し決めていく（交流を重視し時間を決めたラリー形式とする。相手が打ちやすいように心がける、など）。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・実行委員会を作り、事前に話し合いでルールや進行を確認し、当日の進行がスムーズに進むようにした。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・卓球交流会を通じて、地域住民の交流を促進し、地域の社会貢献の担い手育成を図る。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・アンケートからは、「毎年、やって下さい。」「ゲームでなくて和気あいあいでよかったです。」「又企画があれば参加させていただきます!」「いろいろな人と、いろいろな事（技）をおしえてもらって良かったです。」と、事業の内容には高い評価が寄せられた。しかし、実行委員会で進めたが、担い手の発掘、育成という点での達成はできていない。

4 今後の抱負

- ・参加者からは事業の実施を求める声があったので、6年度も事業を計画している。参加者で事業の実施が行えるようになるよう、支援していきたい。

事業風景の写真



【事業名】世代間交流事業 取組① 世代を超えた音楽交流会(市民活動支援・活性化事業)

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年6月3日（土）13時～14時30分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 34名
- 4 協力団体等：山ノ本児童館、近江会（江州音頭）
- 5 予算： 83,000円 / 決算： 83,000円

1 事業内容

①山ノ本児童館によるハンドベル演奏「カントリーロード」

②江州音頭ワークショップ

近江会（江州音頭団体）が演奏し、参加者全員で江州音頭を踊る（交流会当日に向けて、練習会を2回実施した）。

③葦笛ワークショップ

葦笛演奏家による演奏と葦笛文化の紹介
葦笛の演奏体験（10名）

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・市民活動支援が不足している。

2 準備段階での工夫

- ・立ち上げられたばかりの初心者で構成されたよし笛サークルから、演奏技術を高めたいとの声があり、よし笛演奏家によるワークショップを企画した。
- ・コロナ以前、上鳥羽地域では毎年夏祭りで盆踊りが踊られていた。5年度に夏祭りが予定されており、いきセンの利用者の間で盆踊りを懐かしむ声があった。また、いきセンで音頭の練習をされている近江会からは、実際に踊る人の前で音頭をとると良い練習になるという相談を受け、事業に取り入れた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域の世代間交流と住民の交流の場を広げること、地域の音楽活動の基盤づくりにつなげることを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○(1)の達成度について自己分析

- ・アンケート結果を見ると交流会は好評であった。企画はいきセンが主導ではあったが、プログラムの内容は地域の方の意見を取り入れたことで、地域の音楽活動の基盤づくりを進められたと考える。

○アンケート結果などから

- ・「大変よかったです。盆おどりしたいです。」「本日は初めてよし笛の練習に参加させて頂きまして、皆さんにお会い出来てうれしかったです。」「江州音頭はみんなが参加出来てよかった。」など、アンケート結果からは好評であったことがうかがえ、参加者全員が交流できた。
- ・予定されていた夏祭りは開催中止となり、取り組みの成果を披露する機会がなかったのは残念である。
- ・よし笛の体験では、よし笛サークルの方が積極的に参加されサークル活動の活性化の一助になり、地域の音楽活動の基盤づくりの面では効果があったと考える。

4 今後の抱負

- ・出演者と参加予定者にヒアリングをし、双方の希望に応えられる形式をとった。交流会の内容は出演者・参加者の課題を解決するものとなった。本事業のような進め方をする事業を増やしていきたい。
- ・結果的に幅広い世代が参加できたとは言えず、内容について改善したい。
- ・Facebook に練習会や事業のことを投稿したところ、盆踊りのファンサイトに日程が掲載され、練習会と事業の当日に桂や大阪からの参加者があった。テーマによってはネットやSNSでの拡散が期待でき、活用をしていきたい。

事業風景の写真

練習会



交流会



【事業名】世代間交流事業 取組① 音楽交流会2（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年1月20日（土）13時～14時30分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 21名
- 4 協力団体等：山ノ本児童館、あおに よし笛サークル
- 5 予算： 3,000円 / 決算： 4,664円

1 事業内容

よし笛サークルと打ち合わせを行い、プログラムの内容を決め実施した。当日の司会進行はサークルが行い、いきセンは会場設営などサポートに回った。

プログラム：山ノ本児童館児童によるダンス / 音楽演奏 / 紙芝居（よし笛サークルのメンバーによる朗読） / 音楽演奏 / 懇親会

○評価委員会から指摘された事項が

- ・市民活動支援の取組が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・事業のきっかけは、よし笛サークルから、「メンバーを増やしたい。」「発表の機会がない。」との相談を受けたことにある。そこで、よし笛サークルといきセンとで打ち合わせを繰り返してプログラムを作成し、広報についてはいきセンが担当した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- ・サークル活動の活性化を図ることを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・事業後、よし笛サークルのメンバーが増えたと聞く。また、歌声サロン（事業③健康長寿チャレンジ事業取組①）の中で演奏を披露されるようになり発表の場が増えるなど、よし笛サークルの目標は一定程度達成できたと思われる。
- ・アンケートからは、「楽しかった。『時代』の歌良かったです。」「紙芝居に感動した。」との声があり、交流会の内容については好評であった。

4 今後の抱負

- ・サークル活動の支援として行ったところ、結果は良好であった。他にも支援が必要なサークルがあれば、同様の支援を試みたい。

事業風景の写真



【事業名】世代間交流事業 取組② いきセン利用者交流会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和5年12月9日（土）13時～15時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 18名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 14,000円 / 決算： 13,073円

1 事業内容

- ・いきセンを利用しているサークル11団体（健康体操、カラオケ同好会、麻雀教室、フラワー教室、絵てがみ教室、造形教室、陶芸教室、木・土卓球、卓球サークル、よし笛の会、抹茶サークル）が参加し、互いの活動内容について発表する。
- ・参加する団体で実行委員会を組織し、順番や内容について打ち合わせを行う。
- ・交流会では、各サークル団体の代表が順番に発表を行い、最後は抹茶サークルによるお茶会形式の懇親会を行う。

2 準備段階での工夫

- ・参加するサークルで実行委員会を作り、司会進行や交流会の内容について決めていった。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・いきセンサークル団体と地域住民を対象に、世代間交流の場を広げることを目指す。
- ・いきセンの利用者および地域住民のいきセンの利用を広げる。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・参加者はいきセンの利用者のみで、利用されていない方の参加がなかった。
- ・アンケートでは、「楽しかったです。」「これからも活動できる場所として、みんなで協力していきたいです。」「どんな会があるのか、よくわかりました。」との声が聞かれ、好評であった。

4 今後の抱負

- ・参加されたサークル団体の多くはメンバーを募集されていたが、当日しか呼びかけることができなかった。交流会の発表内容を広く知らせることで、サークル団体の活動の活性化ができると思われる。そのための手立てについて検討したい。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

2. サロン運営・活用事業

※サロン運営・活用事業はアンケートをしていない。

【事業名】ふれあい事業 取組① 脳トレーニング（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第2月曜日 脳トレーニング(12回) 第4月曜日 爽やか体操(12回)
いずれも 10時～11時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館2階旧図書室
- 3 参加人数：98人/年(脳トレーニング43人、爽やか体操55人)
- 4 協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター
- 5 予算： 29,000円 / 決算： 48,000円

1 事業内容

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。

②脳トレーニングとして月2回実施。1回は脳トレーニング、もう1回は爽やか体操として取り組む。京都市南区地域介護予防推進センターと連携し、講師は健康運動指導士。実施日によって講師は変わる。

脳トレーニングは間違い探しや計算問題など、爽やか体操は下肢を中心とした筋力トレーニングと整理体操。爽やか体操を取り入れたのは、参加者の間では体操の人气が高く、体操の機会を増やしたいと考えたため。

○評価委員会から指摘された事項

- ・事業内容が高齢者向けに偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・参加者の当日の体調を聞き、異常の有無を確認してから開始する。
- ・いきセンは関連機関との調整や連絡、活動のサポートにあたる。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・心身の機能向上を目指し、リフレッシュ効果と健康生活の向上を図る。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・脳トレーニングや爽やか体操を通じて生活リズムが整い、健康生活を維持する効果が保たれた。昨年度から継続して参加されている方もあり、休まず参加したいとの声が聞かれる。
- ・アンケートはとっていないが、体操は人气が高く、年度の途中から健康体操（事業③健康長寿チャレンジ事業取組②）の参加者も参加されるようになり、事業間の相乗効果が見られた。

4 今後の抱負

- ・昨年度に比べて参加者は増えたが（80人）、全体的に少人数であった。時間・曜日の設定に原因があったと思われる。
- ・推進センターの方針が変更になり、従来の講師による脳トレーニングの形式を続けることができなくなったため、事業は本年度までとした。

事業風景の写真



【事業名】 ふれあい事業 取組② サタデーカラオケサロン&日曜カラオケ (サロン運営・活用事業)

事業の概要

- 1 開催日時：サタデーカラオケサロン 毎週土曜日(48回)、日曜カラオケ 第1,3日曜日(24回) いずれも10時30分～12時30分、13時30分～15時30分の2部制
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：374人/年(サタデーカラオケサロン370人、日曜カラオケ4人)
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 78,520円 / 決算： 91,000円

1 事業内容

幅広い多世代が交流し、地域住民の連帯感・絆を広げる。また、心身のリフレッシュ効果を目指し健康生活の向上を図る。

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②実施時間帯を午前と午後に分けた2部制とする。
- ③世話役を中心に運営を進める。いきセンは危機管理とアクシデント対応を役割とする。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

2 準備段階での工夫

- ・サタデーカラオケサロンの運営は世話役を中心とし、活動の内容や会費などを決め進めた。
- ・Facebookに活動の様子を写真や動画で投稿し、参加しやすい雰囲気づくりを心掛けた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・カラオケを楽しみながら仲間を増やし、地域交流を広げ、参加者の健康生活を向上させることを目標とした。
- ・世話役を中心とした自走化したサークル活動となるようにサポートすることとした。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・サタデーカラオケサロンの運営は世話役が中心となり、会の約束事や会費200円の徴収、忘年会の企画、実行など積極的に活動されている。
- ・アンケートはしていない。地域の方の居場所、交流の場になっており、コロナで来られてなかった方も再び参加されるようになり、交流の輪が広がっている。

4 今後の抱負

- ・サタデーカラオケサロンは世話役を中心に自走化した活動をされるようになった。
- ・日曜カラオケの参加者は少なく、いきセン内で周知をしたが改善できなかった。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組③ マージャン交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：毎月2回 第3月,木曜日(10月からは毎月3回 第1月曜日と第3月,木曜日)
10時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 本館2階旧学習室、サロン
- 3 参加人数： 306人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 144,000円 / 決算： 60,000円

1 事業内容

幅広い多世代が交流し、地域住民の連帯感を広げる。また、心身のリフレッシュ効果を目指し健康生活の向上を目的とする。

- ①毎月2回、第3月・木曜日、10時～16時に実施。
- ②ルールや活動内容は世話役を中心にして決める。
- ③講師はなく、ゲームのルールは熟知している方が初心者に教える。
- ④参加者の希望により、10月からは毎月3回の実施とする。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

2 準備段階での工夫

- ・前年度の初期は参加者が集まらず、自治連合会の末広会の会長に呼びかけの協力を仰いだ。今年度は参加される方々に主に協力を仰ぎ、参加者を募った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・男女や年齢を問わず、マージャンに興味、関心のある方が集まり、親睦と交流を深める。
- ・講師に頼らず、世話役を中心とした自主的な運営を目指す。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・参加者間の話し合いの結果、昼休みをはさむ午前と午後の2部制としている。午前午後の両方に参加される方が多く、熱心に参加されている。
- ・ルールの設定や初心者への指導、企画運営も自主的に実践されてきている。

4 今後の抱負

- ・参加者は平均10.5名で3台の麻雀卓を使用しているが、サロンでは手狭になってきており、さらに人数が増えた場合のことを参加者と検討していきたい。
- ・いきセンから帰宅するのに2時間かかったので今後は参加しないという方があった。参加者の募集範囲について検討が必要である。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組④ ふれあい絵てがみ (サロン運営・活用事業)

事業の概要

- 1 開催日時：第 2,4 水曜日 13 時～15 時 年 23 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： 116 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 125,000 円 / 決算： 35,000 円

1 事業内容

絵てがみの手作り作品の活動を通じて創造力、技能アップを目指し、自立的な活動を推進する。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシを活用して募集する。
- ②参加者の中から世話役を選び出し、活動方針、内容、教材、進め方等意見を出し合って進める。
- ③講師に頼らず、参加者が自主的に制作活動を進める。
- ④いきセンは、絵てがみの情報や絵の素材を探す活動をサポートする。

2 準備段階での工夫

- ・前年度からの継続事業で、参加者の募集には世話役の協力も仰いだ。
- ・講師がいないため、絵てがみを制作することの楽しさや嬉しさを参加者同士で生み出していか、また活動を続けていくために参加者同士がどのように協力するかを考えつつ進めていった。いきセンは、進め方についてや絵てがみの絵の素材を探す手伝いなどのサポートを行った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- ・絵てがみの制作を通じて創造力、技能アップを目指す。また、自立的な活動を推進する。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・毎回 1 人 1 作品を仕上げるなど、絵てがみの創作技能が上達された。
- ・完成した作品はいきセン内に掲示している。掲示の作業はいきセンが行っているが、一部の参加者が自主的に掲示場所を入れ替えるなどの作業を担われるようになった。

4 今後の抱負

- ・絵てがみの作品はいきセンの館内に掲示しており、いきセンの利用者からは興味を持って問合せがある。しかし、実際の参加には至らなかったのもので、こういった方を取り込む工夫が必要である。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組⑤ 抹茶交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第4月曜日 13時30分～15時 年12回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：35人/年
- 4 協力団体等：末広会抹茶サークル、上鳥羽女性会
- 5 予算： 17,000円 / 決算： 24,000円

1 事業内容

上鳥羽末広会抹茶サークルと上鳥羽女性会が連携して、地域の抹茶活動を盛り上げ、茶道の伝統や良さを地域に広める。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシを活用して募集する。
- ②毎月1回、世話役を中心として実施する。
- ③いきセンは活動日の連絡調整や相談事に対応する。
- ④会費は1回500円。

2 準備段階での工夫

- ・実施日の参加人数によって準備物（茶や茶菓子など）が変わるので、活動がスムーズに進むように世話役との連絡調整を行った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・世話役から参加者を増やしたいとの要望があり、参加者を増やすことを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・前年度からの参加者の中に途中で参加されなくなった方があり、年度の始めに比べ参加者は減となった。新規参加者を募集するため、世話役がいきセン利用者交流会（事業④取組②）へ参加するなどされたが、参加者数を回復することはできなかった。
- ・いきセン内に配架したチラシを見て参加を希望される方があり、継続して参加されている。
- ・参加者の中にはスマホで稽古の様子を撮影するなど、学ぶことに積極的な方がある。

4 今後の抱負

- ・世話役は、開始1時間前には来館し会の準備をされている。参加者の方も、数は少ないが活動を熱心に続けられており、必要に応じて支援を続けたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組⑥ 造形教室（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第4日曜日 10時～正午 年12回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：52人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：135,000円 / 決算：142,000円

1 事業内容

俳句創作を通じて創造力、俳句の技能アップを目指し、伝統文化である俳句を若い世代に伝える。

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。

②創作活動は次のように進める。

- 1.参加者は実施日が来るまでに各自俳句の構想を考え、メモやノートに書いて参加する。
- 2.講師と俳句の表現方法について相談し、詠んだ句を色紙に墨で表現する。
- 3.ちぎり絵や水彩画など絵を添えて完成させる。1回につき1作品の完成を目指す。

③作品は、館内や Facebook に掲示する。

2 準備段階での工夫

- ・いきセンで画材（色紙、筆、墨、ちぎり紙など）を準備し、必要があれば参加者が利用できるようにしておく。
- ・いきセンは講師との日程の調整や連絡、活動のサポートにあたる。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者は、俳句を詠むこと、絵を描くことの技能アップを目指すこと。
- ・新しい参加者を増やすこと。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・どの参加者も1回に1作品を完成させることを目標に取り組まれている。ほとんどの方が完成させており、創作技能が向上されている。
- ・完成させられなかった作品は持ち帰り、後日持参されるなど、創作を楽しまれている。
- ・アンケートはしていないが、熱心な参加者からは「俳句を考えるのが楽しい」という声が聞かれる。
- ・参加者数はほぼ変わらず、高齢者のみの参加になっている。

4 今後の抱負

- ・前年度に比べて参加者を増えなかった。また、参加者が高齢者のみとなっており、若年層の参加がないので、参加者と相談し、手立てについて考えていきたいと思う。
- ・講師に頼らない創作の場として活動していくことができるか、参加者と考えていきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組⑦ フラワー教室～花アトリエ講師育成実技講習会～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第2土曜日 10時～正午 年11回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：85人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 242,000円 / 決算： 244,000円

1 事業内容

地域在住のフラワーデザイナーが後継者育成に向けて講習会を開催。受講者が講習会の成果を地域に広げていく。

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。
- ②指導は講師が行う。いきセンは連絡調整や運営をサポートする。
- ③カリキュラムは第1ステップ（基礎）、第2ステップ（研究）、第3ステップ（師範）の3段階で、全33回の講習で師範資格の取得を目指す。5年度は第2ステップを行う。
- ④参加費は材料代（花代、花器含む）として1回3,300円を徴収する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルにとどまっており、市民活動支援の取組が求められる。
- ・講師が固定化されている。

事業の目的をフラワーアレンジメントの後継者育成としており、専門性を必要としていることから、講師による講座型の事業になった。2年目である5年度も講座型となったが、参加者がフラワーアレンジメントのコンテストに出品するなど、講習会の成果を広く発信して事業の目標となる「成果を地域に広げる」ことを行いつつある。最終年となる6年度では、花材の選定を始めテーマ設定までを参加者自身が行うことを予定しており、より一層成果が広まると考えている。

2 準備段階での工夫

- ・いきセンは講師との連絡調整や相談、会場設営をサポートする。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域にフラワーデザイナーが少なく、フラワーアレンジメント制作に係われる人材の育成を図り、師範資格を取得することを目的として取り組む。
- ・参加者も事業の目的があるため、目標に向かって努力をされる効果が期待される。
- ・修了後、フラワーデザイナーの師範取得者が数名排出されることが予想され、地域にフラワー文化が広がっていくことが期待される。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・参加者からは、「フラワーアレンジメントは難しい、楽しい」という声がよく聞かれる。課題は徐々に難しいものになっており、毎回試行錯誤しながら制作に取り組んでおられる。
- ・参加者の中から、コンテストで入賞された方があり（日本フラワーデザイナー協会京都支部主催「第24回京都府立植物園フラワーデザインコンテスト」植物園園長賞）、成果の一つと思う。
- ・6年度から、新たにフラワーアレンジメントの教室が開催されている。フラワーアレンジメントの文化が地域に広がりつつあるのを感じられる。

4 今後の抱負

- ・次年度は最終の第3ステップの年になる。参加者にとっては師範資格取得に向けて更なる努力が必要となるが、いきセンとしては参加者が活動しやすいようフォローしていきたいと考える。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組③ ふれあい書道（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：毎週月曜日 10時～正午 年51回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：135人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：163,000円 / 決算：125,000円

1 事業内容

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。
- ②講師に頼らず、参加者が主体的に書道にチャレンジする。教材や進め方、練習方法は参加者と相談しながら進める。手本などの資料は、いきセンにある模範作品や書籍、インターネットなどを活用する。
- ③いきセンは支援、サポート役として参加する。
- ④習字道具は参加者が各自用意する。

2 準備段階での工夫

- ・いきセンには書道の資料として手本があり、参加者の希望があれば活用している。
- ・書の練習の際には新聞紙を利用されており、いきセンの古紙も活用している。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・書道の技能アップを目指し、書道の魅力を地域に発信すること。
- ・活動を通じ自ら学ぼうとする自立意識を育み、生涯学習に役立てること。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・いきセンにある難しい手本に挑戦される方もあり、技能アップに積極的になられている。
- ・他の事業（事業⑤ふれあい事業取組③造形教室）の参加者で書の上達を望まれる方や、他所で書道の講師として活躍されている方が講師としてではなく一参加者として書を楽しみたいということで参加される方があったりと、書道の広がりを感じられる。

4 今後の抱負

- ・館内のチラシを見て参加を希望される方があったが、講師はいないことを告げると参加を見送られる。いきセンから地域回覧板などに参加者募集を働きかけても参加者増とならなかったのは、このことが影響していたと思う。
- ・地域の交流の場となっており、自立的な活動を続けられている。サークル活動とはなるが必要に応じて支援を続けたい。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績				
	令和5年度実績：532,500円（前年度比 121% 令和4年度実績：441,200円）				
	<table border="0"> <tr> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td>内訳 会議室等： 532,500円</td> </tr> <tr> <td>付属設備： 0円 ※自主事業分を除く</td> </tr> <tr> <td>スモールオフィス：0円</td> </tr> </table>	{	内訳 会議室等： 532,500円	付属設備： 0円 ※自主事業分を除く	スモールオフィス：0円
{	内訳 会議室等： 532,500円				
	付属設備： 0円 ※自主事業分を除く				
	スモールオフィス：0円				
2	管理運営に係る経費の収支決算				
	別紙収支決算書のとおり				

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和5年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

9事業（上鳥羽六斎念仏発表会、勉強会 1,2、世代を超えた音楽交流会、音楽交流会 2、卓球交流会 1,2、健康実践交流 1、いきセン利用者交流会）について、下記の設問にてアンケートを実施した。値は9事業の平均値（設問 1,3,4 については、3段階で評価）。

設問1 事業の感想（満足度）

設問2 どこで知りましたか

設問3 内容

設問4 センターの対応

設問5 年代

設問6 自由記載

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
49.8%	48.1%	0.9%	0%	1.2%

(2) センター独自アンケート

設問1 事業の感想（満足度）

	満足	普通	不満	未記入
平均	78%	11%	0%	11%

設問2 どこで知りましたか

	センター	チラシ	知人	新聞	HP	その他
平均	55%	12.2%	27.5%	0%	1.6%	3.7%

設問3 内容

	満足	普通	不満	未記入
平均	87.1%	11.9%	0%	1%

設問4 センターの対応

	満足	普通	不満	未記入
平均	89.1%	10.3%	0%	0.6%

設問5 年代

	80代以上	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代以下	未記入
平均	19.2%	44.2%	14.1%	8.8%	4.2%	4.9%	1.6%	1.9%	1.1%

設問6 自由記載

○世代を超えた音楽交流会

- ・大変よかったです。盆おどりしたいです。
- ・交流会のことをもっとアピールすれば良いのになあと思いました。当日、センターの入り口（門の所）にポスターとかチラシを貼ると目立つのかな？

○卓球交流会 1,2

- ・楽しくプレーさせていただきました。運営もスムーズで楽しかったです。
- ・他のサークルから、練習に参加したいとの申し出があった。

○上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～発表会、勉強会

- ・知らずにタイコを続けるのと知って続けるのでは大きなちがいだと思いました。おっちゃん（※上鳥羽橋上鉦講中の蜘蛛の巣作成者）が地道な作業でいを作ってくださいっていてとても感動しました。
- ・質疑応答が非常に良かった。特に音楽の先生の指摘と Diversity の話。
- ・9月に六斎念仏の実演（※発表会）を拝見したので興味を持ちました。これからは現地で見学したいと思います。ありがとうございました。

○健康実践交流1

- ・ゲームに振り回されない様に管理（時間、内容）するのは、大人でも難しい。でも、できる事をやるしかない様に思いました。
- ・参加する人が少ない様に思います。もっと大々的にやれば良いと思う。

○いきセン利用者交流会

- ・これからも活動できる場所として、みんなで協力していきたいです。
- ・どんな会があるのか、よくわかりました。

○音楽交流会 2

- ・はじめての参加でしたけどとても楽しかった今回の集まりでした。
- ・今回は特に M さんの年齢と歌声、紙芝居に感動した。私も前向きに行動しようと努力します。

○卓球交流会 2

- ・いろいろな人と、いろいろな事（技）をおしえてもらって良かったです。
- ・みんなで交流すると、いろいろ勉強になるといつも思います。

3 意見等への主な対応状況

利用者からの要望や希望に対して次のように対応した。

- ・“マーじゃん交流 “参加者から

Q. 初心者を対象にした時間を作りたいので、活動日を増やすことはできないか。

A. 月 2 回の実施ですが、月 3 回に増やすことは可能です。

- ・“世代を超えた音楽交流会” のアンケートより

Q. (事業)の当日、センターの入り口（門の所）にポスターとかチラシを貼ると目立つのかな？

A. 従来は、事業のチラシを拡大コピーしてセンターの壁に貼ったりして来館者にお知らせをしていた。しかし、センターの敷地内に入らないと目には見えなかった。指摘を受けて、立て看板をセンターの入り口に立てかけたり、外周の柵にチラシを掲示したりと、センターの前の往来を通る人たちにもアピールするようにした。

- ・全センター共通窓口サービス調査より

Q. 場所がわかりにくい。近隣の表示がわかりにくい。

A. センターの周辺には所在を示すものがなかったので、センター名およびセンター周辺の地図をセンターの外柵に掲示した。

Q. もっと活動を知らせて欲しい。

A. 事業の実施予定日の月間カレンダーを作成し、玄関等に配架した。

Q. 電話の音量が小さく、聴き取りづらいときがある。

A. 電話機の設定で“送話音量”を大きくした。また、受話器の持ち方で送話音量が変わることがわかり、職員間で受話器の持ち方を注意するようにした。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

○取り組んだ事業等の総括

- ・市民活動支援・活性化事業において、講座型のスタイルと指摘されていた事業を見直した。昨年度の音楽交流会は、センターが主体となって企画、調整などを行っていた。「世代間交流事業 取組① 世代を超えた音楽交流会」では、音楽サークルとセンター利用者にヒアリングし、双方で希望があったことからマッチングする形になった。「世代間交流事業 取組① 音楽交流会 2」では、音楽サークルが主体となり交流会の内容の企画、プログラム作成などを行い、センターは出演者同士の打ち合わせの調整やチラシ制作などサポートする役回りとした。

健康実践交流1では、参加者全員が参加して話し合いをするワークショップの形式とした。いずれもセンターとしては従来とは違った試みであり、同様の取り組みを行いたい。

- ・上鳥羽六斎念仏は3回実施した。2年目の取り組みで勉強会は講座型となったが、参加者は京都市内から広く集まった。後日、この事業の参加者の中から出演依頼があり、公演を行ったと聞く（国際文化政策研究交流集会【次世代に繋ぐ文化資本と地域づくりの展望】）。当事業がきっかけとなり、活動の広がりを生んだと思われる。
- ・サロン運営活用事業については、自走化に至ったと思われる事業がいくつかあったため、サークル活動に移行した。5年度から継続している事業については、参加者の交流の場としてつつ自走化へ向けていきたいと考えている。
- ・情報発信の点については、まだまだ足りていないと感じている。5年度は、ネットで検索して来館された新規利用者が数組あった。事業の実施についても、センターが把握していないところで情報が拡散されていたりした。利用者を増やすには情報発信が効果的と痛感している。HPやジモティだけでなく、X等のSNSも効果的に利用していきたい。

○今後、解決すべき課題等

- ・評価委員会からの主に三点の指摘事項（講座制の事業を減らす事、参加者との双方向の取組を考える事、講師の固定化を減らしていく事）について、今後も改善していく。

○次年度に向けた対応

- ・5年度と同様に事業によってはサークル活動に移行できるように支援し、また、参加者が主体となる事業の取り組みを進めていく。取り組みを進めるにあたってはセンターだけでは力不足であるため、まちづくりアドバイザーとも相談していきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項特になし。

○年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業

- ・事業② 上鳥羽あんしんあんぜんまちづくり事業～水害事例から学ぶ～ 取組① 水害学習
京都市立上鳥羽小学校と連携し、三学期に5年生の総合学習の際に行う予定であった。三学期に入りインフルエンザと新型コロナによる学級閉鎖が3回行われた。そのため、通常の授業時間を確保することが難しい状況になり、事業（水害学習）を実施する時間も確保することが困難となったため。令和6年度については、小学校と相談したところ小学校の独自の取り組みとして実施することが可能との声をいただき、実施を見送ることとした。

- ・事業③ 健康長寿チャレンジ事業 取組③ 健康実践交流
年2回開催のところを、2回目の実施を中止した。本事業について前事業担当者からの引継ぎが十分でなく、講師の選定や確保といった事業実施のための体制が整わなかった。そのため事業の実施が困難となったため。事業の実施については、事業のテーマが専門知識を必要とし講座型にならざるを得ないと判断し、実施を見送ることとした。